

持続可能なお寺を目指して

家で過ごしているような居心地の良さを目指して
～ 鉄骨造の和風建築多目的ホール ～

浄土真宗本願寺派総合研究所
寺院活動支援部〈過疎地域対策担当〉

家のような気兼ねのなさ

〈津島工業さまで和風の葬儀会館を建てられていますね。先日、その一つを利用させていただきましたのですが、とても雰囲気がよく、ご遺族がくつろいでいたのが非常に印象的で、それが理由で取材させていただきました。会館を建設する上で大切にしていることは何ですか？〉

「まず、〈家で葬儀をしているように〉

建築費用の負担が大きくなり、維持しやすい多目的ホール建築についてご紹介してきましたが、今回は、多目的ホールとして先駆的に建築されている葬儀会館のホールについて取材を行った。葬儀会館には、ビルディング風の構造物がある一方で、木調の伝統的な建築物も見られる。特に後者の場合は、本堂を建築する場面に参考とすべき点が多い。

今回は、こうしたホールを数多く手掛けてこられた「津島工業」(岡山県岡山市)に取材を行った。津島工業の木村会長のインタビューと会館の利用者の声をご紹介します。

ということですが。もともと、お葬儀は家でやっていました。その良さが、この会場でも感じられるようになりました。それから、五十人でも入れるようにしてあります。最近、少人数の葬儀が多いですが、生前関係のあった人が気兼ねなくたくさん集まれるようにということを受注者さまから依頼されました」



さくら祭典 さくらホール上道

まるで木造のような

「入って、すぐに感じたのは、木造建築の良さです。木の風合いが、なんと柔和やかな雰囲気を出しています。」

「いえ、実は、鉄骨造なんです。重量鉄骨です」

「そうなのですか。それにしても、玄

関は格天井くわてんじょうになっていて、伝統的な木造建築の良さが活かされていますね。」

「玄関は、特に丁寧な細工をしています。天井は格天井で、下駄箱は竹で作っています。玄関へのポーチは御影石みかげいしを使用しています。廊下はアジロです。それから、わざと大黒柱を立てていて、木造の雰囲気を出し、木の持つやさしさ・温かさを感じていただけるようになっています」

なぜ木造風なのか

「木造建築でない理由は、特にありませんか？」

「木造建築には、もちろん良いところがたくさんあります。うちでも木造で多目的ホールを建築したケースもあります。ただ、最近はお寺などで使える良質で立派な木材を調達することが大変なんです。木材は乾かないと使えませんし、それ以前に木材の取り寄せに時間がかかるので、その分工期も長くなりコストも



高くなります。かつてのお寺さまのように、百年以上もつ木造の伽藍がらんを建てるのは時間とコストの面で難しくなっているのです」

ぬくもりと涼しさと

「冬の寒い日の午前に使わせていただきましたが、ご遺族の小さな子どもたちが、居心地良さそうにしていたのが印象



的でしたね。)

「そこも、とても配慮した、居心地の良さ」という点です。ホッとできるには、どういう建物が良いかを施主さんと話し合ってきました。まず、床暖房にしています。それから、ガラスはすべてペアガラスです。ペアガラスというのは、二枚のガラスの間に乾燥空気を入れたもので、これを使用すると外の明かりもた

くさん取り入れることができ断熱効果があり、結露も防げます。加えて壁は一〇〇ミリの断熱材を使用しています。そのため、エアコンは設置していますが、冬でもエアコンをほとんど使用していませんと聞いています。つけると暑いと苦情が出ますので(笑)。それと、ご遺族の控えのお部屋は、なんの気兼ねなく、ゴロンと横になれる」というのがコンセプトで畳の間になっています。ご遺族は心身ともにお疲れになりますから」

本瓦と銅板風の屋根について

〈確かに、優しい暖かさがあるなあと感じました。お寺もお年寄が多いので、こうした気配りは嬉しいですね。断熱ということ言えば、瓦はやはり機能性の高い瓦を使用されているのですか?〉

「瓦は本瓦です。三州瓦さんしゅうがわらを使用しています。最近つくられている瓦は機能が高くなっていると言われてますが、やは

り一〇〇年くらい、しっかりと家を守ってきた実績のある瓦を使用すべきと考えて本瓦を使用しています。また瓦と銅板風の屋根を組み合わせています(写真)。これは、実は銅板ではなくて、ガルバリウム銅板というステンレスをいぶしたものです。最近は酸性雨が降るようになって、銅に穴が開きやすくなっているのので、代わりにするものとして、これを使って外観を整えました。その他、外壁部分の幅木はばきは石を使用しています」



経費はフル装備で坪一〇〇万円

「一番気になるのは経費です。色々と凝った造りになっていきますが、どれくらいのご予算でしょうか？」

「二階建ての場合には、坪一〇〇万円程度です。平屋となると、もう少し高くなります。この値段は、今日お話ししたような要素をすべて取り入れた場合です。もちろん、お寺で言う内陣ないじんなども費用に含まれています。今日は詳しくお話ししていませんが、出棺時に屋根の下からテントが出て雨に濡れないようにしているとか、葬儀会館用の機能も持たせてありますので、その分の値段が高くなっている面があります。もしシンプルに本堂を建てる場合には、もう少しコストを下げられると思います」

「ありがとうございます。非常に参考になりました。」

利用者の声を聞く

この取材の後、実際に津島工業が建築した会館である「さくら祭典」から、利用者の声を聞かせていただきました。

興味深かったのは、以前利用した経験から、この会館を選ぶ人が多いということでした。過ごしやすさ、落ち着いた、宗教儀礼を行える厳かさおごそを感じましたが、



「ゆっくりできた」「家よりくつろげた」「広くて便利」という声が多く、私と同様に「木造の心地良さを感じた」という感想の方もいらっしゃいました。

設備が良いので利用費は決して安くはないのですが、一度利用した方が再度利用されるといえるのは、葬儀や法事が「安い」ということだけでは判断されない面があることを示していると思います。

今回は、葬儀会館を取材・見学しましたが、今後は実際に低コストで本堂を建築された事例を取材していく予定です。

注1 重量鉄骨とは厚さ六ミリを超える鉄骨のことを言う。

注2 アジロは、網代天井のことで、竹の皮などを縦横に編み込んだもの。茶室などに使用される様式。

注3 三州瓦は、三河国（愛知県）で生産されてきた伝統的な瓦のこと。石州瓦・淡路瓦とならび、日本三天瓦の一つ。古くは東大寺再建（一一九一年）等に使用された。本瓦（葺き）は、丸瓦と平瓦を交互に葺く伝統的な形式。